

★国連総会第1委員会が2日に採択した核兵器の非人道性に関する決議案3本のうち、日本政府は、核兵器禁止条約の交渉開始を呼び掛ける2本に棄権、国連日本政府代表部は「核兵器国と非核兵器国の協力に必ずしもつながるものではなく、日本のすすめる現実的かつ実践的な核軍縮のアプローチと警戒性が取れない」という判断から棄権した」と。

旗 赤 読者のひろば

日本共産党
砺波市委員会
西尾 英宣
千代180
Tel 33-6118

【日本共産党富山県委員会が県予算要望】 三十五人学級の実現をほか

先週につづき、県予算要望についてお知らせします。

少人数学級

小3で対応を検討

要望「三十五人学級の対象学年拡大を国に求めるとともに、当面県独自で小学校三、四年生への三十五人学級の導入を。低学年では三〇人学級学級に取り組むこと」
回答「小学校三年生は生活習慣や学習態度を身につける点で個人差が大きく、一部の学校では小規模な方が学級を安定させやすいとの声も

聞いています。九月議会で知事から『小学校三年生では一律に少人数学級にするのではなく、それぞれの学校の実情に応じて柔軟に対応できるように選択制も検討する必要があります。ではないか』と答弁があった。少人数教育については、まずは国において財源措置を講じていただきたく、県の重点要望として国にはたらしかけている」
・・・『選択制』といっても、施設等の条件で実際には導入できないのではないか』などとし

て、三十五人学級をつよ
く求めました。

買い物支援対策を 強化されたい

要望「買い物支援対策を市町村、農協、商店街と連携して強化されたい」
回答「運営主体に初期費用を補助している。平成二十六年年度の助成実績は南砺市のNPO法人一件三七万二千元(上限五〇万円)であった」
・・・「実績が一件だけというの、使いにくい制度であるということだ。使いやすい制度に見直しを」、「初期費用の助成だけでは不十分であり、運営費についても助成を」と各市町から重ねて要望。

ひづめ県議は「地方創生そのものである」と指摘し、有効な県の補助メニューの工夫、充実を求めました。

企業立地助成制度 市の財政負担軽く

要望「県企業立地助成制度は市の財政負担からも懸念される。制度を見直されたい」
回答「経済情勢や企業の立地動向などで随時見直しを行なうてきています。新幹線開業で本県が大きく発展するチャンスであるし、企業誘致においても追い風が吹いていると思っています。引き続き市町村と連携して取り組んでいく」
・・・多田前市議は「P社の工場が稼働していたら、市の負担は十億以上とも：負担できるものではない」と指摘。県当局は「一時に過大な負担とならないよう、分割払いの運用も行なっている」などと回答。

多田前市議は「一時であらうとなかろうと過

大な負担となることが問題。市の財政規模や事情を考慮しない制度は見直しを。企業立地に大きなお金をかけるより、買い物支援など地元で根ざした部分をこそ手厚く」と求めました。県当局は「県内企業も大切にしよう」と、増設要件を緩和するなど配慮している」とこたえました。

マイナンバー制度中止 を国に求められたい

マイナンバー制度について県当局は「社会保障、税、災害対策の三つの分野で使うもの」としました。多田前市議は「その三つであるなら、マイナンバーカードが図書館の貸出カードなどに使えるなどの運用はやめるべき」と指摘。県当局は「ICチップの空き容量の活用」などとこたえました。

★日本共産党の穀田恵一国会対策委員長は4日、国会内で記者会見し、環太平洋連携協定(TPP)など国政の重要問題について衆参の予算委員会閉会中審査(10、11日)で安倍内閣を追究するとともに、各委員会の閉会中審査も開かせるよう努力しながら、臨時国会の必要性を明らかにし開催を迫っていく考えを表明。

【ただのひやき】

30日 たけだ氏研修視察

富山県農民連の事務所は砺波市にあります。参院予定候補のたけだ良介さんの視察研修ということで、農業の問題、そして利賀ダムの問題について一日一緒にしました。

たけだ良介さんは三六歳の若さで三人の男の子(一歳、三歳、五歳)がいながら候補者活動。数学教師を志望しながら「教師は担当した生徒との関係だけ。すべての子どもたちのためにも社会を変えなければ」と政治の道に入ったとききます。いやはや、た



▲利賀の現場を視察する たけだ(右)、高橋(中)の両氏



▲3日1時~太郎丸交差点で「アベ政治を許さない」

いた若者だと思えます。高橋わたる参院選挙区予定候補も同行されました。

3日 澤地久枝さんのよびかけに呼応

「政治のあまりのひどさに、また『アベ政治を許さない』を掲げようと思ひ、よびかけます」毎月3日の午後一時、に呼応し、となみ九条の会のメンバー有志で太郎丸交差点に。信号待ちで停まった車から身を乗り出して注目される人や、車の中からガッツポーズする人などの反応が。

(何でもお気軽にご連絡・ご相談ください)・多田携帯 090-33369-8216

【続きんの口説】

30日 たけだ良介氏(参院比例予定候補)とチューリップ農家を訪ねました

長野県生まれの三六歳の若い候補者ですが、現場の生の声を聴きたいと各地を訪ねています。今日は富山県の呉西地区、農業の現場を知りたいということで、チューリップ球根生産と稲作を専業としておられる農家に邪魔させていただきました。先々が富山で球根栽培を始め、苦勞して普及されたお宅です。

営農事情について尋ねると「どの政治家も信用できない!」と、ご立腹の弁。政策がくるくる変わるし、言っていることがその場しのぎで少しも当てにならない、そのうえTPPの大筋合意で対策を検討と言われているが中身はわからない、この先には本当に希望が持てない状況だと語られました。幸いに三十代の息子さんが一緒に作業をして居られ、経営を引き継いでいこうと頑張つて居りますが、それだけに心配の募る現状なのでしよう。



▲「政治家は信用できない...」生産者の声に耳をかたむける たけだ良介氏(右)

先が見えない事への不安は、農業に関わる人達に共通です。砺波市農業者協議会の皆みなさん(担い手農家や営農組合などで組織)が先程、市や県、農協などへの要望事項をまとめられました。

訪ねた農家は「なんとか継続していくために頑張る」と語られました。協議会の要望書では「集落営農組織は...農業所得が無くて...作業を何とかこなしているが...」とあります。疑問や不安が募つてもとにかく営農を続けたいという思いが農地を支えているのだと思ひます。この思いに伝える政策を早く。

前段で「規模拡大や法人化を図り、農作業効率を高め、低コスト化につなぐ努力を重ねていますが...」努力に見合うだけの対価が得られているか疑問で、明るい展望が描けない状況です」とあり、一俵一万五千円の安定した米価につながる施策を要望する項目では、「現在の国の施策は場当たり的のしか見

え、五年後、十年後の農業のあり方を示していかないと、担い手が育たなくなる」と問題点を指摘しておられます。政府は、「TPPの大筋合意」で農業が打撃を受けるとの批判に、相手国の関税も無くなるからほとんど輸出できるなどと盛んに宣伝しています。今でさえ異常に自給率が低いのに、さらに安い農産物を輸入して国民に食べてもらう、代わりに日本の農民は高級農産物を作つて外国に輸出する!「攻めの農業」なんだそうです。が、何と軽薄なスローガンかと悲しくさえなります。